

令和 5 年度

FD 活動報告書



令和 5 年度 FD 活動報告書 目次

1. はじめに	2
2. FD 委員会の開催	3
2-1 開催状況	3
3. 学生による授業アンケートの実施	4
3-1 実施要項	4
3-2 集計結果	5
4. FD 研修会の実施	9
4-1 研修会の概要	9
5. 授業参観の実施	10
5-1 実施要項	10
5-2 実施結果	10
6. ループリックによる授業評価	11
6-1 取り組みの概要	11
6-2 実施状況	11
6-3 評価表の共有と活用状況	11
7. 令和 5 年度 FD 活動の総括	12

1. はじめに

本学の FD 活動の概要と成果

岡崎女子大学・岡崎女子短期大学

FD 委員長 春日 規克

「令和 5 年度 FD 活動報告書」は、令和 5 年度の岡崎女子大学・岡崎女子短期大学 FD 委員会が行った FD 活動の概要と成果を学内に報告することで、教員の授業改善に役立ち、教育の質の向上につながることを期待してまとめたものです。

本報告書には、令和 5 年度の FD 委員会の実施状況と主な議題を記し、中心的な活動であった 1.授業アンケート、2.FD 研修会、3.授業参観、4.ループリックによる授業評価の各活動について、教員への依頼や実施案内、質問項目や集計結果並びに実施状況、各種報告書の様式等を掲載しています。

本報告書が、FD 活動のいっそうの充実と教育の質の向上に、ついては学生生活の向上の一助となれば幸いです。

2. FD 委員会の開催

令和 5 年度は、下記のとおり計 7 回委員会を開催した。

2-1. 開催状況

開 催 日	主 な 議 題
第 1 回 (R5.4.26) * IR 推進室会議と合同開催	<ul style="list-style-type: none">・確認事項IR 推進室の目的と業務FD 委員会の目的と業務昨年度の IR 推進室における収集・分析データ昨年度の FD 研修会及び FD 委員会の取組・令和 5 年度 IR 推進室の活動予定内容・令和 5 年度 FD 委員会の活動予定内容・令和 5 年度における IR 推進室と FD 委員会との連携及び会議の持ち方
第 2 回 (R5.5.31) * IR 推進室会議と合同開催	<ul style="list-style-type: none">・令和 4 年度 FD 活動報告書（案）について・「学生による授業アンケート」の実施について・授業参観の実施・ループリック評価の実施について・FD 研修会の実施について
第 3 回 (R5.7.26)	<ul style="list-style-type: none">・令和 5 年度 FD 研修会の計画と実施について・ループリック評価の実施について・「学生による授業アンケート」に基づく自己点検評価について
第 4 回 (R5.9.27)	<ul style="list-style-type: none">・第 1 回 FD 研修会開催結果について・ループリック評価の実施について・前期「学生による授業アンケート」結果について
第 5 回 (R5.11.22)	<ul style="list-style-type: none">・令和 6 年度予算について
第 6 回 (R5.12.27)	<ul style="list-style-type: none">・後期「学生による授業アンケート」の実施について
第 7 回 (R6.3.15)	<ul style="list-style-type: none">・令和 5 年度 FD 報告書の作成について・令和 6 年度 FD 研修会について

3. 学生による授業アンケートの実施

令和5年度も前年度に引き続き、授業アンケートを、下記のとおり実施した。なお、実習系授業については、前期・後期ではなく、授業終了に合わせて実施をした。

令和5年度実施に当たり、アンケートの設問項目を一部見直すとともに、自由記述項目で学生から多くみられた意見を評価・改善要望に整理・抽出し、教員に共有することで更なる授業改善の一助となるよう努めた。

*実施結果を示す資料を次頁以降に掲載する。

3-1. 実施要項

(1) 実施目的

本学教員が自分の授業内容および授業方法を改善するために、受講生の声を聞くことを目的とする。

(2) 実施期間

各期における授業の第13～15週の期間で行う。

前期 6月27日（火）～8月5日（土）

後期 12月20日（水）～1月30日（火）

(3) 実施する授業

全ての授業科目で実施。

※ゼミナールも同一のアンケートで実施。

(4) 実施方法

アンケートは、ポータルサイトを利用して実施。実習系授業については、Microsoft Forms を利用して実施。

（学生には、「ポータルサイトからアンケートへの協力依頼と入力手順を送信。）

(5) アンケート集計結果による自己点検報告書の提出

教務課でアンケート集計を行い、各教科の結果及び大学・各学科の平均値を算出する。後日、その集計結果を教員に送付し、各自「授業に関する自己点検報告書」を作成し、教務課へ提出する。

3-2.集計結果

(1) 岡崎女子大学子ども教育学部

<前期>

履修者数 2,411 名／回答者数 2,080 名／回答率 86.3%

設 問	平均 値	
	R5 年度	R4 年度
1 教員から、シラバスの説明があり、シラバスに沿って授業が進められていまし たか。	4.64	4.66
2 教員の授業（説明、資料など）は分かりやすかったですか。	4.60	4.61
3 あなたは、この授業で主体的に（学生間で議論をしたり、積極的に質問をした 等）取り組みましたか。	4.62	— (R5 年度新設)
4 教員は、学生からの疑問点、質問に適切に対応していましたか。	4.63	4.65
5 教員は、受講者の理解度を確認しながら進めていましたか。	4.57	4.59
6 あなたは、この授業に満足しましたか。	4.62	4.64
7 あなたは、この授業について、さらに学びを深めたりましたか。	4.59	4.61
8 あなたは、この「授業の到達目標」を達成することができましたか。	4.50	4.54
9 この授業について、良いと思った点や改善した方がよいと思った点があれば、 記述してください。	—	—
設問全体の平均	4.60	4.62

<後期>

履修者数 2,713 名／回答者数 2,183 名／回答率 79.96%

設 問	平均 値	
	R5 年度	R4 年度
1 教員から、シラバスの説明があり、シラバスに沿って授業が進められていまし たか。	4.69	4.61
2 教員の授業（説明、資料など）は分かりやすかったですか。	4.65	4.51
3 あなたは、この授業で主体的に（学生間で議論をしたり、積極的に質問をした 等）取り組みましたか。	4.69	— (R5 年度新設)
4 教員は、学生からの疑問点、質問に適切に対応していましたか。	4.71	4.54
5 教員は、受講者の理解度を確認しながら進めていましたか。	4.65	4.47
6 あなたは、この授業に満足しましたか。	4.69	4.51
7 あなたは、この授業について、さらに学びを深めたりましたか。	4.66	4.46
8 あなたは、この「授業の到達目標」を達成することができましたか。	4.62	4.41
9 この授業について、良いと思った点や改善した方がよいと思った点があれば、 記述してください。	—	—
設問全体の平均	4.67	4.50

(2) 岡崎女子短期大学幼児教育学科第一部

<前期>

履修者数 2,476 名／回答者数 1,910 名／回答率 77.1%

設 問	平均 値	
	R5 年度	R4 年度
1 教員から、シラバスの説明があり、シラバスに沿って授業が進められていましたか。	4.67	4.58
2 教員の授業（説明、資料など）は分かりやすかったですか。	4.62	4.46
3 あなたは、この授業で主体的に（学生間で議論をしたり、積極的に質問をした等）取り組みましたか。	4.54	— (R5 年度新設)
4 教員は、学生からの疑問点、質問に適切に対応していましたか。	4.60	4.47
5 教員は、受講者の理解度を確認しながら進めっていましたか。	4.54	4.39
6 あなたは、この授業に満足しましたか。	4.57	4.39
7 あなたは、この授業について、さらに学びを深めたりしましたか。	4.51	(4.39)
8 あなたは、この「授業の到達目標」を達成することができましたか。	4.49	4.39
9 この授業について、良いと思った点や改善した方がよいと思った点があれば、記述してください。	—	—
設問全体の平均	4.57	4.45

<後期>

履修者数 2,377 名／回答者数 1,377 名／回答率 54.6%

設 問	平均 値	
	R5 年度	R4 年度
1 教員から、シラバスの説明があり、シラバスに沿って授業が進められていましたか。	4.66	4.56
2 教員の授業（説明、資料など）は分かりやすかったですか。	4.58	4.46
3 あなたは、この授業で主体的に（学生間で議論をしたり、積極的に質問をした等）取り組みましたか。	4.61	— (R5 年度新設)
4 教員は、学生からの疑問点、質問に適切に対応していましたか。	4.62	4.50
5 教員は、受講者の理解度を確認しながら進めっていましたか。	4.55	4.44
6 あなたは、この授業に満足しましたか。	4.57	4.43
7 あなたは、この授業について、さらに学びを深めたりしましたか。	4.53	(4.43)
8 あなたは、この「授業の到達目標」を達成することができましたか。	4.52	4.46
9 この授業について、良いと思った点や改善した方がよいと思った点があれば、記述してください。	—	—
設問全体の平均	4.58	4.47

(3) 岡崎女子短期大学幼児教育学科第三部

<前期>

履修者数 2,285 名／回答者数 1,589 名／回答率 69.5%

設 問	平均 値	
	R5 年度	R4 年度
1 教員から、シラバスの説明があり、シラバスに沿って授業が進められていましたか。	4.55	4.53
2 教員の授業（説明、資料など）は分かりやすかったですか。	4.43	4.36
3 あなたは、この授業で主体的に（学生間で議論をしたり、積極的に質問をした等）取り組みましたか。	4.38	— (R5 年度新設)
4 教員は、学生からの疑問点、質問に適切に対応していましたか。	4.43	4.43
5 教員は、受講者の理解度を確認しながら進めっていましたか。	4.31	4.26
6 あなたは、この授業に満足しましたか。	4.37	4.29
7 あなたは、この授業について、さらに学びを深めたりしましたか。	4.33	(4.29)
8 あなたは、この「授業の到達目標」を達成することができましたか。	4.32	4.22
9 この授業について、良いと思った点や改善した方がよいと思った点があれば、記述してください。	—	—
設問全体の平均	4.39	4.35

<後期>

履修者数 2,201 名／回答者数 1,661 名／回答率 76.5%

設 問	平均 値	
	R5 年度	R4 年度
1 教員から、シラバスの説明があり、シラバスに沿って授業が進められていましたか。	4.57	4.61
2 教員の授業（説明、資料など）は分かりやすかったですか。	4.50	4.55
3 あなたは、この授業で主体的に（学生間で議論をしたり、積極的に質問をした等）取り組みましたか。	4.47	— (R5 年度新設)
4 教員は、学生からの疑問点、質問に適切に対応していましたか。	4.50	4.59
5 教員は、受講者の理解度を確認しながら進めっていましたか。	4.43	4.47
6 あなたは、この授業に満足しましたか。	4.47	4.47
7 あなたは、この授業について、さらに学びを深めたりしましたか。	4.47	(4.47)
8 あなたは、この「授業の到達目標」を達成することができましたか。	4.45	4.44
9 この授業について、良いと思った点や改善した方がよいと思った点があれば、記述してください。	—	—
設問全体の平均	4.48	4.53

(4) 参考：授業に関する自己点検報告書による改善検討

学生による授業アンケートの結果を基に教員は自己点検報告書を作成し、授業内容の改善に活かしている。「学生による授業アンケート」の実施結果、及び「授業アンケートによる自己点検報告書」の内容は、FD委員会による確認を経た上で、教務課にて学生が閲覧できる体制が整えている。

授業に関する自己点検報告書様式

【授業に関する自己点検報告書】(令和5年度)			
所属	<input type="checkbox"/> 岡崎女子大学教員 <input type="checkbox"/> 岡崎女子短期大学 <input type="checkbox"/> 非常勤講師	教員氏名	
	1. 授業アンケート結果（自由記述を含む）の分析と評価（担当科目、クラス名を明記する）		
授業アンケート	2. 次年度に向けた授業改善の取り組み		
	3. 授業参観について		
授業参観	授業参観を行った先生は、下記を記入してください		
	参観日	令和 年 月 日 ()	限目
	参観科目		
授業担当			

*提出期限は、前期9月29日（金）、後期3月29日（金）とした。

4. FD 研修会の実施

令和5年度はFD研修会を1回開催した。実施日とテーマ、講師、参加人数は以下の通りであった。

4-1.研修会の概要

第1回FD研修会「教育現場における生成系AIとの共存と有効活用に向けて」

日 時 令和5年8月30日（水）10:40～12:10

講 師 大久保将氏（ターンイットイン ジャパン Strategic Account Executive）

場 所 2301教室

参加者 大学専任教員 15名 (82.4%)

短大専任教員 12名 (80.0%)

非常勤講師 2名

事 務 職 員 3名

5. 授業参観の実施

令和5年度は授業参観を下記のとおり実施した。

5-1. 実施要項

(1) 実施目的

本学教員が授業の内容・方法について教職員による情報交換を行い、授業改善に資すること、また、教育内容の充実や教員の教育力向上を目指すことを目的とする。

(2) 実施方法

専任教員・非常勤講師ともに任意実施とする。

ただし、大学教員歴3年未満（令和3年4月以降に本学に着任し、かつ、本学を問わず大学・短期大学の教員としての専任教員経験が3年未満）の短大所属教員は年間1回以上を必須、大学所属教員は年間1回以上を推奨とする。

(3) 参観可能な授業

岡崎女子大学・岡崎女子短期大学で実施する対面授業

(4) 授業参観の方法

①参観する教員（以下：参観者）は、事前に参観を希望する授業の教員に依頼する

- ・授業内容（シラバス）に基づき、参観する日時を調整する。
- ・授業担当者は授業内容を知らせ、学生に配布する教材や資料を渡し、参観の方法を検討する。

②参観日

- ・授業担当者は、授業を受講している学生に、参観の実施について伝達する。
- ・参観者は対象授業を原則90分間、参観する。

③参観後

- ・参観者は、「授業に関する自己点検報告書」に授業参観の有無を記載し、提出する。

（提出期限 前期：令和5年8月29日 後期：令和6年3月29日）

5-2 実施結果

大学7名／16名（43.8%）7件

短大4名／15名（26.7%）4件

授業参観コメントに示された意見を、教員へフィードバックし、次年度において改善を加えるなど、さらなるFD活動の推進し、教育の質の向上に努めていく。

6. ループリックによる授業評価

令和5年度は、前年度までの取り組みを継続することを目的に以下のとおり取り組んだ。

6-1.取り組みの概要

(1) 前年度までの経緯と目的

単位の実質化に向けて、シラバスにおける自修時間の明記だけでなく、自修における成果について具体的に測る評価方法が求められている。また、アクティブラーニングにおける学修についても、明確な評価方法を検討する必要があったことから、令和4年度に各授業科目単位におけるループリック評価を実施した。

令和5年度はこの取り組みを継続しながら、学科ないしDPでのループリック評価に向けた全学での情報共有及び検討を開始した。

○ループリック評価における代表的なメリット

- ・ループリック評価では、毎回の授業において評価表の評価軸へ「評価する内容」を定めることにより、授業の目的や到達目標について学生と共有することができる。
- ・教員が求めている到達度が明らかになり、学生の課題や進度における理解について明確に把握することができる。
- ・評価における公平性を示すことができる。

(2) 対象教員

岡崎女子大学・岡崎女子短期大学の全専任教員。ただし、非常勤講師は任意とする。

(3) 各授業評価のためのループリック評価表作成方法

①「全体（15回）」、「授業1回分」、「授業に向けての予習、復習」等、可能な範囲で設定する。

※各授業科目において、建学の精神→教育目的→DPの流れを把握し、DPと授業科目における到達目標との関連性を明らかにする。

②最低1回分（任意の1科目）は実施する。

6-2.実施状況

大学 16名／16名（100%）※実習支援室 助手教員を含まず

短大 18名／20名（90%）

6-3.評価表の共有と活用状況

岡崎女子大学・岡崎女子短期大学の全専任教員に対して、教員間で共有し、活用できるように依頼した。提出されたループリック評価表はOWポータル（sharepoint）にアップロードして閲覧可能にしている。

7. 令和5年度FD活動の総括

令和5年度FD委員会では前年度の活動を概ね踏襲し、①授業評価アンケート②FD研修会③授業参観④授業改善のためのループリック評価、の4点について意義や方針を検討・確認し、実施しました。以下、各活動について簡単に振り返ります。

学生による授業評価アンケート（5段階評価）では、大学の平均が前期4.60（前年度4.62）後期4.67（前年度4.50）、短大の平均が前期4.48（前年度4.44）後期4.53（前年度4.53）という前年度同等の高い水準を維持していることが確認できました。各教員が前年度の授業アンケート結果を振り返り、授業改善の努力を重ねた結果であることが推測されます。

今年度開催したFD研修会では「教育現場における生成系AIとの共存と有効活用に向けて」のテーマで、外部講師によるオンライン研修を行いました。近年、大きな注目を集めているchatGPT等の生成系AIについて、学生に対しその利用を単純に禁止するのではなく、上手く活用していく方法や、教員が教育研究活動等における情報セキュリティ問題・著作権問題、さらには、利用上の注意に関する理解を深めることを目的として開催しました。講演後には、各学科に分かれてグループワークを実施しました。グループワークを通じて、「生成系AIを活用した不正行為への対策や懸念を本学としてどのように対応していくか」や「大学の勉強では、正しい何かよりも自分で考えた何かに価値があることを伝えながら、生成系AIとの上手な付き合い方を模索したい」等という意見が出されました。

授業参観につきましては、専任教員・非常勤講師ともに任意実施としました。ただし、大学教員歴3年未満の短大所属教員は年間1回以上を必須、大学所属教員は年間1回以上を推奨することとして実施し、「授業実践の参考になった」などの意見が出されています。

個々の教員における、授業改善に対するFD活動の有効性につきましては、授業評価アンケートの点数がさらに上がるかや、AIを利用した教育研究活動を実施し体験することでその価値や利用法をさぐるなど、今後の検証が必要と言えます。一方で、各活動における評価や実施率の数値は全般的に高い水準を保っていることから、大学全体として判断すれば、本学のFD活動は授業改善に寄与し教育の質の向上をもたらしたと推測できます。

今後は、組織として継続する活動と教員個人の自主的な活動との峻別など、FD活動の方向性、並びに高等教育機関としての教育の質の向上に資する重点的なFD活動の探究が求められます。引き続きFD活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年度FD委員長 春日 規克